

徳之島事務所（令和6年10月分）管内情勢

農林水産業関連

1 新規就農者及び青年農業者が野菜の栽培基本技術を学ぶ

9月から10月にかけて大島支庁徳之島事務所にて、管内で野菜を栽培する新規就農者及び青年農業者を対象に、座学の勉強会を計4回開催し、対象者約15人が出席した。

各回ごとにテーマを設け、土壌物理性改善や適切な肥培管理、病害対策、虫害対策等について、講義や演習を通して学んだ。

会では、出席者から質問が多数出るなど反応は良かったため、農業普及課では改良を加えながら今後も本活動を継続していく計画である。

2 ばれいしょ病害対策の重要性を再認識

10月2～3日にJAあまみ徳之島事業本部、10月18日にJAあまみ天城事業本部の主催で、ばれいしょ栽培講習会が行われ、延べ150人以上の生産者及び関係者が出席した。

会では、疫病及び軟腐病の発生生態と対策を説明した。前年度作で腐敗塊茎が多発したことを受け、疫病防除の考え方については、特に重点的に説明した。

出席者から、説明終了後に質問が多数出るなど、腐敗塊茎の軽減に向けて士気の高まりが感じられた。

3 実えんどうの基本技術を再確認

9月30日にJAあまみ徳之島事業本部及びJAあまみ天城事業本部の主催で、実えんどうの栽培講習会が開催され、生産者・関係者計22人が参加した。

近年、実えんどうの単収が低迷していることを受け、本会では、草勢管理技術、病害虫管理技術等を中心に講習を行った。

農業普及課では、今後も栽培管理技術の指導を継続的に行い、基本技術の定着を図っていく。

4 かぼちゃの基本技術を再確認

9月17日にJAあまみ徳之島事業本部で、抑制かぼちゃの栽培講習会が行われ、生産者・関係者計27人が参加した。会では、直播播種方法や受粉方法、追肥、かん水など基本的な栽培管理技術について講習を行った。また、農業開発総合センター徳之島支場研究員から、台風通過後の管理について説明が

行われた。農業普及課では、今後も栽培管理技術の指導を継続的に行い、技術の高位平準化を図っていく。

5 高栄養飼料作物生産で生産コスト低減を目指す

10月7日に天城町畜産生産者1人が、飼料用トウモロコシの二期作栽培を約3haで開始した。

冬も温暖な当地域では、秋冬季から初春にかけて飼料用トウモロコシの栽培が可能で、台風襲来リスクの低い秋冬季は高品質なものの生産が期待できる。

農業普及課では、飼料用トウモロコシの重要害虫であるツマジロクサヨトウに対する初期防除薬剤の現地試験ほ場も設置し、子牛価格の低迷と飼料等資材の高騰下での生産コスト低減へ向け、高栄養飼料作物生産への取組を支援する。

